

サステナブルイベントマネジメントシステム ～ISO20121の最新動向について～

西 利道 (SGS ジャパン株式会社)

キーワード：持続可能性、マネジメントシステム、ISO20121

はじめに

2012年6月15日、持続可能なイベントのためのマネジメントシステムの国際規格ISO20121が発行された。この規格の元となったのは英国規格BS8901であり、2006年に発行された「持続可能な発展のためのマネジメントに関するガイダンス」BS8900シリーズの第1弾として、2007年に開発されたPDCAマネジメントシステムツールを含む実践的な規格である。

BS8900シリーズでは、持続可能な発展のためには、損益のみでなく、環境や社会への配慮、すなわちトリプルボトムラインを重視しなければならないとしており、トリプルボトムラインを重視する組織が、即ち社会的責任を全うする組織であるという流れにつながっている。

BS8901及びISO20121は、ロンドンオリンピックを見据えて開発されており、世界中が注目し、社会的意義が非常に大きいこのスポーツの祭典において、持続可能なイベントの在り方、そして持続可能な社会のモデルを提言しようという、英国の意気込みを感じる。

ロンドンオリンピックとサステナブルイベントマネジメント

London2012 Sustainability guidelines – Eventによると、「持続可能なイベント」とは、参加者に体験を提供するだけでなく、
—誰もがアクセス可能で包括的である。

- 安全が確保されているという雰囲気がある。
 - 環境への悪影響を最小にする。
 - 人々の健康的な生活を支援する。
 - イベントに関する物品・サービスの責任ある調達行動を促す。
 - 人々のサステナブルな行動を奨励する。
 - イベント後に有形無形の財産を残す。
- と定義されている。

様々な利害関係者との関与から、会場建設に始まり、一連の試合、そしてオリンピック後の影響に至るまで、前述の定義に沿った高い目標が設定され、目標達成に向けた取り組みが実践されている。(取り組み事例等については、可能な範囲で研究大会発表当日に発表する。)特筆すべき事項としては、オリンピック開始前の時点において、建設業界における取り組みは、サステナビリティに関する目標の殆どすべてを達成しており、先進的な建設会社においては、サステナビリティ(特に環境)に関する差別化が可能となったことを、明言していることが挙げられる。これはまさに、PDCAサイクルのマネジメントシステム導入の効果であろう。

もう1点、運営方法に関する特徴としては、The Commission for a Sustainable London 2012という組織の存在が挙げられる。これは、ODA(Olympic Delivery Authority)やLOCOG(London Olympic Committee of the Olympic and Paralympic Games)といった主催者側から独立した委員会組織であり、ロンド

ンオリンピックにおける、サステナビリティに関するコミットメントに対する取り組み進捗状況や目標達成状況を監視している。

同委員会では、2008年以降、毎年レビュー結果を公表しており、また今までにコメントした提言についてもその顛末が確認できるように、同委員会のウェブサイトで公表している。

(2012年6月19日現在、233の提言が確認出来る。)

このように、透明性を確保するための手段が講じられており、今後の持続可能なイベント運営に向けたあるべき姿を示唆しているように思われる。

MICE 業界における動き

2012年6月19日デンマーク外務省は、2012年1月から6月まで開催された、2012 EU Presidency で、政府が主催する大規模な国際イベントとして初めての ISO20121 認証を取得したと発表した。3か所の会場で、110の会議を行い15,000人の参加者を動員する内容となる。なお、デンマーク政府は、2009年に開催された気候変動枠組条約締約国会議 COP15 において、BS8901 認証を取得している。

今回、2012 EU Presidency で認証を取得した背景として、「効果的なイベントを効率的なコストで運営する責任」、「サステナビリティに関する取り組みによるイベントの品質確保と費用節減の両立」を挙げている。

アジアでは、タイが ISO20121 への取り組みを加速している。2012年6月、フランクフルトで開催された IMEX 2012 において、タイ政府機関である TCEB(Thailand Convention and Exhibition Bureau)責任者が、「タイは、ASEAN 諸国で最初に ISO20121 を適用する。」と宣言している。タイは4年前から、「グリーンミーティング」に関する国家規格を策定し、MICE

運営事業者、会場、そして宿泊施設などに同規格を広げ、今や環境面に配慮した会議としては、アジアの中で大きな評価を得るに至っている。今後さらに、タイ政府として「サステナビリティ」を前面に出しながら MICE 誘致を推進していくことであろう。

まとめ

前述の The Commission for a Sustainable London 2012 は、2011 Annual Review の中で、BS8901 の適用が民間にさほど広がっていないのが残念であると表明しているが、一方で、今後政府やロンドン当局が実施する公的イベントでは BS8901(今後は ISO20121)認証を必須とするよう働きかけている。

また世界的にも、前述の内容以外に徐々に広がりを見せており、ロンドンオリンピック閉会後の IOC や FIFA の動きからも目が離せない。

「サステナビリティ」という概念は簡単には理解できないが、結局のところ極言すれば、利害関係者のニーズを満たすことに他ならない。それは何も特別なことではなく、従来のイベント運営においても重要な概念であり、念頭において取り組んでいた内容であろう。ISO20121 は、それを体系的に組織に落とし込んで活用するための単なるツールである。

単なるツールであるがゆえ、使い方によってどのようなメリットが得られるかは大きく異なるが、ブレークスルーによって、新たな技術が生まれる可能性もあるし、質の高いイベントを適切なコストで運営するカギとなるかも知れない。いずれにせよ、これからの時代においては、持続可能なイベントを実施するためには、体系的なイベント運営、透明性を確保し、信頼性を向上させる取り組みは不可欠であろう。